

令和5年度「精神医学コース」筆記試験 2023. 07. 14

1. 女性に多いのはどれか、1つ選べ。

- ① 双極Ⅰ型障害
- ② アルコール依存症(アルコール使用障害)
- ③ 自閉スペクトラム症
- ④ 神経性食思(欲)不振症(神経性やせ症)
- ⑤ 反社会性パーソナリティ障害

2. 7歳の女兒。就学してから2ヵ月間、教師や児童と会話をしないことを指摘され、心配した両親に連れられて来院した。幼稚園でもほとんど発語はなかったが、身振りでコミュニケーションはとれていた。幼少時から現在まで、家族とは普通に会話しており、知的な遅れは目立たない。神経診察を含む身体診察に異常を認めない。

考えられるのはどれか、1つ選べ。

- ① 吃音症(小児期発症流暢症)
- ② Tourette 症候群
- ③ 学習障害
- ④ 選択(性)緘黙
- ⑤ 素行症

3. 18歳の男子。3ヵ月前から周囲の視線が気になると外出するのを嫌がり、この2週間は自宅にいても誰かに部屋の中を覗かれているし、部屋で話す声を盗聴されていると訴えるため、両親に連れられて精神科を受診した。妄想が強いと判断され、抗精神病薬を処方された。服薬2日目から足がむずむずすると部屋の中を歩き回ることが多くなり、夜はむずむず感のため、不眠を訴えるようになった。

このむずむず感について正しいのはどれか、1つ選べ。

- ① ジストニアと呼ばれる。
- ② 両下肢の知覚低下を伴う。
- ③ 睡眠時無呼吸症候群を伴う。
- ④ 脳波異常を伴う。
- ⑤ 抗精神病薬の減量により軽快する。

4. 7歳の男児。落ち着きのなさを心配した両親に連れられて来院した。学校の担任から、授業中じっと席に座っていることができず勝手に席から離れること、おせっかいが多く同級生の邪魔をしてしまうため喧嘩になること、忘れ物が多いことを指摘されている。自宅では後片付けや整理整頓が苦手だが、自分の好きなゲームには集中して取り組むことができる。外出時に車が来るのを確認せずに飛び出してしまうことがある。出生時に異常は指摘されなかった。乳幼児期の発達で明らかな遅れを指摘されたことはない。神経診察を含む身体所見に明らかな異常を認めない。

現時点で考えられる疾患について正しいのはどれか、1つ選べ。

- ① 知的障害を伴う。
- ② 有効な薬物療法がある。
- ③ 成人になると症状は消失する。
- ④ 出生後の養育が発症要因である。
- ⑤ 好ましい行動を褒めるよりも好ましくない行動を注意する。

5. 35歳の男性。「戸締りを確認していて毎日のように遅刻してしまう」という主訴で来院した。一人暮らしだが、約3ヵ月前に近所で空き巣があったというニュースを聞いてから、自分では過剰だと思いながらも戸締りの確認がやめられずに悩んでいる。仕事でも書類の紛失を心配して確認することが目立つようになった。集中力や意欲に問題はない。

考えられるのはどれか、1つ選べ。

- ① 適応障害
- ② 解離性障害(解離症)
- ③ 強迫性障害(強迫症)
- ④ 身体化障害(身体症状症)
- ⑤ 社交(社会)不安障害(社交不安症)

6. 患者の訴えのうち、抑うつ状態が最も考えられるのはどれか、1つ選べ。

- ① 「すぐにかっとなってしまいます」
- ② 「何をするのも億劫で仕方ありません」
- ③ 「なんとなく落ち着かない気持ちになります」
- ④ 「昼間にうとうとすることが多くなりました」
- ⑤ 「外に出ると誰かに見られているような気がします」

7. 18歳の女子。呼吸困難を主訴に救急外来を受診した。通学途中に満員のバスの中で急に息苦しく、呼吸が促迫になった。パニック症で自宅近くの診療所に通院しているが、それ以外の基礎疾患はない。意識は清明。体温36.8℃、脈拍104/分、整。血圧112/72mmHg。呼吸数48/分。SpO₂ 100% (room air)。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音ともに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。四肢にチアノーゼを認めない。患者は「息ができない。手の指先と口の周囲が痺れる」と言っている。

この患者に救急外来で行う対応として正しいのはどれか、1つ選べ。

- ① 抗精神病薬を内服させる。
- ② そのまま学校に行かせる。
- ③ 低流量酸素を吸入させる。
- ④ 紙袋を口につけて呼吸させる。
- ⑤ ゆっくり呼吸するように指導する。

8. 次の文を読み、8～10の問いに答えよ。

85歳の男性。発熱と呼吸困難を主訴に家族とともに来院した。

現病歴:1年前から息切れのため自宅の階段を昇ることが困難となり、食事や飲水の際のおせが出現した。食事量も

低下し、半年間で体重が 5kg 減少した。1 週間前から咳嗽と喀痰が多くなり、2 日前から 38℃ の発熱と呼吸困難がみられるようになったため家族に伴われて受診し、入院した。

既往歴: 15 年前から高血圧症に対してアンジオテンシン変換酵素 (ACE) 阻害薬を内服している。5 年前から物忘れが目立つようになり、2 年前に Alzheimer 型認知症と診断された。

生活歴: 65 歳まで会社員。現在は娘の家族と同居。喫煙は 65 歳まで 20 本/日を 45 年間。飲酒歴はない。自宅で猫を飼育している。

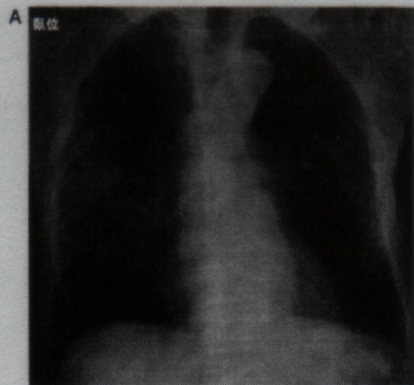
家族歴: 両親とも脳梗塞で死亡。

現症: 意識は清明。身長 160cm、体重 43kg。体温 38.0℃。脈拍 120/分、整。血圧 122/78mmHg。呼吸数 28/分。眼瞼結膜に異常を認めない。口腔内の衛生状態は不良である。心音に異常を認めない。呼吸音は両側で wheezes を、右背側で coarse crackles を聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。浮腫を認めない。

検査所見: 血液所見: 赤血球 412 万、Hb 13.1g/dL、Ht 40%、白血球 9,800 (好中球 82%、好酸球 2%、好塩基球 0%、単球 7%、リンパ球 9%)、血小板 34 万。血液生化学所見: 総蛋白 5.8g/dL、アルブミン 2.9g/dL、総ビリルビン 1.1mg/dL、AST 14U/L、ALT 10U/L、LD 230U/L (基準 120~245)、ALP 64U/L (基準 38~113)、尿素窒素 28mg/dL、クレアチニン 1.5mg/dL、尿酸 6.0mg/dL、血糖 135mg/dL、Na 139mEq/L、K 4.7mEq/L、Cl 106mEq/L、CRP 5.1mg/dL。動脈血ガス分析 (鼻カニューラ 2L/分 酸素投与下): pH 7.33、PaCO₂ 58Torr、PaO₂ 72Torr、HCO₃⁻ 30mEq/L。

なお、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) PCR 検査は陰性であった。

入院時の胸部 X 線写真 (A) と胸部単純 CT (B) を次に示す。1 週間前からの状態変化の要因として 考えにくい のはどれか、1 つ選べ。



- ① 体重の減少
- ② 認知機能の低下
- ③ 口腔内の衛生状態不良
- ④ 食事や飲水の際のむせ
- ⑤ アンジオテンシン変換酵素 (ACE) 阻害薬の内服

9. [問題 8.] の患者について、呼吸状態の急性増悪に対し、抗菌薬とともに用いる薬剤として適切なのはどれか、1 つ選べ。

- ① NSAID
- ② β 2 刺激薬
- ③ アルブミン製剤

④ 抗ヒスタミン薬

⑤ テオフィリン薬

10. 〔問題 8.〕の患者について、入院 3 日目、患者の状態は改善傾向で酸素も不要となったが、急に呼吸心拍モニターを引きちぎり、「今日は仕事に行く」と言い病室から出ようとした。表情は乏しく、入院中であることを説明しても聞きいれず、複数名での制止を要する状態であった。

対応で誤っているのはどれか、1 つ選べ。

① 脱水を避ける。

② 早期離床を促す。

③ 日中の覚醒を保つ。

④ 呼吸心拍モニターを終了する。

⑤ 夜間はベンゾジアゼピン系睡眠薬を用いる。

11. 10 歳の男児。体を後方にそらす運動や無意味な言葉を繰り返し発するようになり、両親に連れられて来院した。6 歳ごろから顔をゆがめる、首を振るなどの運動を繰り返し、突然声を発したり咳払いをしたりするようになった。8 歳以降は拍手やジャンプなど、より複雑な運動も繰り返すようになった。汚い言葉を繰り返し発することもあるという。

この児で最も考えられる疾患はどれか、1 つ選べ。

① 分離不安症

② Tourette 症候群

③ 自閉スペクトラム症

④ 吃音症〈小児期発症流暢症〉

⑤ 注意欠陥多動障害〈ADHD〉

12. せん妄について正しいのはどれか、3 つ選べ。

① 脱水は発症要因となる。

② 治療によらず改善は見込めない。

③ 数時間から数日で急速に発症する。

④ 身体疾患を背景に持つことが必須である。

⑤ 日内変動がありしばしば夜間に増悪する。

13. 「周りの景色を見ても生き生きと感じられない。感情がわいてこない」と訴える患者にはどの異常があるか、1 つ選べ。

① 意識

② 気分

③ 知覚

④ 見当識

⑤ 自我意識

14. 身近な人との死別に伴う悲嘆反応で誤っているのはどれか、1 つ選べ。

- ① 成人特有の反応である。
- ② うつ病との鑑別が必要である。
- ③ 身体的影響を生じる。
- ④ 提供されるケアをグリーンケアという。
- ⑤ 時間とともに軽快する。

15. 統合失調症を主な対象として、精神症状の包括的な評価尺度として使用されるのはどれか、1つ選べ。

- ① Rorschach テスト
- ② 状態特性不安検査(STAI)
- ③ リバーミード行動記憶検査(RBMT)
- ④ Mini-Mental State Examination(MMSE)
- ⑤ 簡易精神症状評価尺度[Brief Psychiatric Rating Scale(BPRS)]

16. 34歳の女性。「誰彼かまわず夜中に電話をする」状態が持続するため、母親に連れられて来院した。2週間前から話している内容がまとまらない、些細なことを契機に笑い出すと止まらないなど、普段とは異なる行動がみられた。睡眠をほとんどとっていないが、本人は疲れを感じていない。親戚や友人の電話でマンションや車の購入計画などを話し、相手が反対すると激しく怒り出すようになった。血液検査、脳画像検査、脳波検査、脳脊髄液検査で異常は認めず、違法薬物の摂取もなかった。

この患者でみられる症状はどれか、1つ選べ。

- ① 多弁
- ② 浪費
- ③ 易怒性
- ④ 見当識障害
- ⑤ 睡眠欲求の減少

17. ベンゾジアゼピン系あるいは非ベンゾジアゼピン系睡眠導入剤の依存による離脱症状として出現する可能性のあるのはどれか、2つ選べ。

- ① 眼振
- ② 手指振戦
- ③ 協調運動障害
- ④ 昏迷または昏睡
- ⑤ けいれん発作

18. 4歳の男児。保育所で他の児に興味を示さないことを指摘され来院した。身長102cm、体重15.6kg。乳児期には母親の後追いをせず、現在も一人で遊ぶことが多い。発語が遅く二語文は話せない。換気扇に異常な興味を持っている。

この疾患でみられるのはどれか、2つ選べ。

- ① クレーン現象。
- ② 反響言語。

- ③ 人見知りをする。
- ④ 視線を合わせる。
- ⑤ ごっこ遊びを好む。

19. 62歳の女性。物忘れを主訴に1人で来院した。半年前から大切なことを忘れそうで何かとメモを取るようになった。メモを取っても取り忘れたのではないかと落ち着かなくなる。だんだん記憶力が落ちてきたと思う。楽しみにしていた友人との旅行を、旅先で体調を崩すのが心配になって取りやめてしまった。救急車のサイレンを聞くと、孫が事故にあったのではないかと気もそぞろになる。動悸がしやすく、時々めまいもするが、家事全般はこなしている。身なりは整い、動作は機敏で、面接中はやや緊張しているが、受け答えは適切である。

考えられるのはどれか、1つ選べ。

- ① 病気心配症
- ② うつ病
- ③ 全般不安症
- ④ 身体症状症
- ⑤ Alzheimer 型認知症

20. 前頭葉機能障害の評価に用いるのはどれか、1つ選べ。

- ① Rorschach テスト
- ② 標準高次視知覚検査
- ③ Minnesota 多面人格検査(MMPI)
- ④ Mini-Mental State Examination(MMSE)
- ⑤ ウィスコンシンカードソーティングテスト(WCST)

21. 抗精神病薬の副作用はどれか、1つ選べ。

- ① 行歯肉の肥厚
- ② 乳汁分泌
- ③ 小脳失調
- ④ 多毛
- ⑤ 下痢

22. 22歳の男性。地方都市の素封家に生まれ、不自由なく育った。地元の高校を卒業後、大都市の大学に入学した。ほどほどに勉強し、サークル活動に参加し、親友もでき、ガールフレンドができたり別れたりして、大学生生活に満足しているつもりだった。ところが、友人たちが就職を話題にする時期になって、自分は人生に何を求めているのか、わからなくなってしまった。両親は家業を継ぐことを期待しているし、自分もそのつもりだったが、それでいいのだろうか。このまま社会に出るのが不安になってきた。

この青年が直面している課題はどれか、1つ選べ。

- ① 社会性の習得
- ② 分離不安の克服

- ③ 自我同一性の形成
- ④ 自己中心性の獲得
- ⑤ 抽象的思考能力

23. 22 歳の男性。発言にまとまりがないことを主訴に父親に伴われて来院した。視野に入る事物に関連付け「私は石だ。神をつくらることができる」と言い、奇妙な姿勢のままブツブツとしゃべり続けた。しゃべっていたかと思うと、全く質問に答えず、身じろぎもせず一点をじっと見つめる状態となった。

この症例で生じる可能性のある症状はどれか、1つ選べ。

- ① ジストニア
- ② カタレプシー
- ③ アカシジア
- ④ カタプレキシー
- ⑤ ジスキネジア

24. 27 歳の男性。言動の変化を心配した妻に伴われて来院した。半月前から「盗聴されている」と言って部屋にこもり、仕事に行かず、食事もありとらない。精神保健指定医が診察し入院が必要であると診断したが、本人は入院を拒んでいる。妻は入院の必要性をよく理解している。

対応として最も適切なものはどれか、1つ選べ。

- ① 外来治療
- ② 任意入院
- ③ 医療保護入院
- ④ 措置入院
- ⑤ 応急入院

25. 48 歳の男性。下血を主訴に来院した。精査にて大腸癌が発見され、手術目的で外科病棟に入院した。20 歳で統合失調症を発症し、作業所に通所中であった。患者が手術を嫌がり同意が得られないため精神科医師がコンサルテーションを受けた。

精神科医師の対応で誤っているのはどれか、1つ選べ。

- ① 医療保護入院の手続きをとる。
- ② 手術の説明と同意の取得に協力する。
- ③ 外科スタッフに精神医学的説明を行う。
- ④ 社会福祉士と協力して家族との連携を図る。
- ⑤ 外科スタッフとともに周術期の精神科薬物療法を計画する。

26. 次の文を読み、26～28 の問いに答えよ。

33 歳の女性。何もする気になれないことを主訴に夫に伴われて来院した。

現病歴: 31 歳時、運転中に突然、息苦しさ、動悸、冷汗およびめまいが出現し、気が遠のき、死ぬのではと恐怖に駆られて総合病院の救急外来を受診した。処置を受けて発作は落ち着いたが、その後同様の発作がしばしば起こるようにな

り、内科、脳外科、婦人科および耳鼻科の受診を繰り返した。「また発作が起きるのでは」という心配も強くなった。次第に銀行やデパートやスーパーへも出かけられなくなった。ここ 1 年間は外出を極力控え家に閉じこもるようになった。徐々に気分が落ち込み、将来に悲観的となり、物事に興味を失い、家事もやりたくない。熟睡できず、食欲が落ち、体重が 1 年で 8kg 減少した。現在も発作は時々起きている。

既往歴：月経前に体調不良となる傾向があった。

生活歴：生来明るい性格で、友人も多かった。高校卒業後、事務職として働いていた。22 歳時に結婚し、2 児を育て専業主婦として過ごしていた。

現症：意識は清明。身長 162cm、体重 45kg。体温 36.5℃。脈拍 72/分、整。血圧 120/76mmHg。

この患者に認められるのはどれか、2 つ選べ。

- ① 過剰な予期憂慮
- ② 社交不安
- ③ 広場恐怖
- ④ 予期不安
- ⑤ 心気症状

27. 〔問題 26.〕の患者について、対応として適切でないのはどれか、1 つ選べ。

- ① 自殺念慮の有無を問う。
- ② 外出訓練を勧める。
- ③ 薬物療法を勧める。
- ④ 回復を保証する。
- ⑤ 休養を勧める。

28. 〔問題 26.〕の患者について、薬物療法として適切でないのはどれか、1 つ選べ。

- ① 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI)
- ② ベンゾジアゼピン系抗不安薬
- ③ オレキシン受容体拮抗薬
- ④ セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 (SNRI)
- ⑤ スルピリド

29. 記憶障害を認めないのはどれか、1 つ選べ。

- ① させられく作為体験
- ② 解離性同一症
- ③ Korsakoff 症候群
- ④ アルコール離脱
- ⑤ 複雑部分発作〈精神運動発作〉

30. アルコール依存症(アルコール使用障害)のスクリーニングの質問として有効でないのはどれか、1 つ選べ。

- ① 「朝一番に飲酒をすることがありますか」

- ② 「アルコール度数の高いお酒が好きですか」
- ③ 「飲酒に対して罪悪感を持ったことがありますか」
- ④ 「他人から飲酒に対して注意されたことがありますか」
- ⑤ 「飲酒を控えなければならないと感じたことがありますか」 護士との面会

31. 妄想が出現するのはどれか、1つ選べ。

- ① 失神
- ② 食思不振
- ③ てんかん
- ④ 感覚障害
- ⑤ 睡眠時無呼吸症候群

32. 注意欠陥・多動症(ADHD)で正しいのはどれか、2つ選べ。

- ① ドパミン神経系の異常が想定されている。
- ② ペアレントトレーニングは効果がない。
- ③ 小学校入学時に同定されることが多い。
- ④ アトモキセチンは非中枢神経刺激薬である。
- ⑤ 学業成績には影響しない。

33. 強迫症(強迫性障害)について正しいのはどれか、1つ選べ。

- ① 通常、パニック発作が併存する。
- ② 強迫行為は、強迫観念を中和させるために行われる。
- ③ 生活機能が障害されることは少ない。
- ④ 第一選択薬は非定型抗精神病薬である。
- ⑤ チック症との関連は乏しい。

34. 65歳の女性。「嫁が財布をとった」と言っては騒ぐと家族に伴われて来院した。家族によれば、患者は最近わがままで短気になり、物忘れも目立つようになったと言う。財布は家族と一緒に捜すと、机の引き出しの中に見つかったりする。患者は惘然として、「嫁は意地悪だ」と言う。

診断に有用な検査はどれか、1つ選べ。

- ① Rorschach テスト
- ② Minnesota 多面人格検査(MMPI)
- ③ Mini-Mental State Examination(MMSE)
- ④ 簡易精神症状評価尺度[Brief Psychiatric Rating Scale(BPRS)]
- ⑤ Hamilton うつ病評価尺度

35. 35歳の男性。疲労感と意欲低下とを主訴に妻に伴われて来院した。3ヵ月前に職場で配置転換があったところから、仕事が向いていないのではないかと悩み始めた。疲労感と食欲不振とを自覚し、体重が3kgほど減少した。寝つきは良いが

夜中に目覚めてしまう。家にいるときも思い悩んでばかりいて、すっかり笑顔が消えてしまった。本人は、原因は職場にあり、この状態の解決には辞職するしかないと訴える。

この症例で認められる可能性が高い所見(症状)はどれか、2つ選べ。

- ① 遊離トリヨードサイロニン(FT3)体値
- ② GH 高値
- ③ 徐波睡眠の減少
- ④ コルチゾール低値
- ⑤ レム潜時の延長

36. 32歳の男性。妻と子供とに暴言を吐くため、見かねた両親に伴われて来院した。高校2年生のとき、特にきっかけもなく元気がなくなり、3ヵ月間学校を休んだことがある。その時は特に治療を受けずに回復し、その後は順調であった。3ヵ月前から、職場で上司や同僚と口論することが増え、注意を受けると不機嫌になり、反抗的な態度を示すようになった。夜間や休日の外出が増え、浪費が著しい。普段は上機嫌でじょう舌だが、ちょっとしたことでいらいらして悪態をつく。妻が浪費を注意すると激昂して暴言を吐く。幼い子供が泣きやまないと怒鳴りつける。元々は機会飲酒程度であったが、最近では酒量が増えた。本人は、心身の不調は全く自覚しておらず、両親の懇願に応じてしぶしぶ受診したと言う。

本症例について、最も適切と考えられるのはどれか、1つ選べ。

- ① 診断は双極Ⅰ型障害で、その発症は32歳時である。
- ② 診断はパーソナリティ症(障害)で、その発症は32歳時である。
- ③ 診断はアルコール使用障害(アルコール依存症)で、その発症は32歳時である。
- ④ 引き続き外来通院にて治療を行う。
- ⑤ 治療は、入院にて行う。

37. 27歳の女性。一点を見つめ何事にも無関心なのを心配した夫に伴われて来院した。5週前に、帰宅途中に性的暴行を受けた。それ以後家から出ることができず会社を休んでいる。夜も全く眠れず、食欲もなく、急激に体重が減少した。夫が心配して話しかけるが返事をせず、ぼおっと一点を見つめるのみである。

本症例の治療について、間違っているのはどれか、1つ選べ。

- ① 認知行動療法
- ② 精神分析療法
- ③ EMDR
- ④ 持続エクスポージャー療法(PE)
- ⑤ SSRI

38. 29歳の女性。不安と不眠とを主訴に来院した。2年前に結婚した。それまで優しく見えた夫は家庭内ではちょっとしたことで激昂し、しばしば殴られ体中があざだらけになった。とうとう耐え切れず、半年前から別居している。しかし、別居後も別居前の生活を思い出して寝付けず、酒と睡眠薬とに頼るようになった。最近、夫が自分の職場に出入りする可能性が生じた。それを知って以来、体重が激減し、睡眠薬の量が増えてきた。電話の音にびくとし、仕事に出る気力もなくなった。入院を希望している。

入院治療にあたり考慮すべき法律はどれか、2つ選べ。

- ① 生活保護法
- ② 労働安全衛生法
- ③ 麻薬及び向精神薬取締法
- ④ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律<精神保健福祉法>
- ⑤ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律<DV防止法>

39. 21歳の男性。言動の変化を心配する両親に連れられて来院した。大学受験に失敗したところから自宅に閉じこもりがちとなり、共働きの両親が不在のときは家中のカーテンを閉ざしていた。受診前には、「近所の人が自分の悪口を言っている」、「自分の考えたことがテレビで放送されている」などと両親に訴え、独り言が目立ち、食事でも満足に摂らなくなっていた。入院して1ヵ月半後には、摂食が改善し、奇異な発言も独り言もなくなり、不活発ながらも談笑に加わるようになった。両親は退院するとまた引きこもるのではないかと心配している。

今後の方針として最も適切なものはどれか、1つ選べ。

- ① 転地療養
- ② 訪問看護
- ③ 入院継続
- ④ デイケア通所
- ⑤ 援護寮入所

40. 正しいのはどれか、1つ選べ。

- ① 意識障害で幻覚は現れない。
- ② 偽痴呆は思考の障害で起こる。
- ③ 感情失禁はうつ病の特徴である。
- ④ 解離症状は見当識の障害で起こる。
- ⑤ もうろう状態は意識の障害で起こる。

41. 思考の障害でないのはどれか、1つ選べ。

- ① させられ(作為)体験
- ② 連合弛緩
- ③ 観念奔逸
- ④ 保続
- ⑤ 迂遠

42. 見当識の評価に適切な質問はどれか、2つ選べ。

- ① 「100から7を引くといくつですか」
- ② 「今日は何年何月何日ですか」
- ③ 「今いるところはどこですか」
- ④ 「誕生日はいつですか」
- ⑤ 「住所はどちらですか」

43. 睡眠について正しいのはどれか、1つ選べ。

- ① 深睡眠は朝方に増加する。
- ② 深睡眠期に夢をみることが多い。
- ③ REM睡眠は乳幼児では少ない。
- ④ REM睡眠では寝返りを打たない。
- ⑤ 総睡眠時間は青年期以降一定である。

44. 72歳の女性。2年前にAlzheimer病を発症し通院中である。最近症状が進行してきたので、夫が今後の対応を相談するため来院した。自宅で夫と二人で暮らしており、患者の介護や家事一切は夫がしている。最近、物忘れがますますひどくなっている。特に夜間に徘徊や幻覚による興奮がみられるようになり、目が離せなくなった。夫は疲労しているが、今後も妻と同居することを願っている。

この夫に対するアドバイスで適切なのはどれか、1つ選べ。

- ① ショートステイを利用する。
- ② 就寝時に妻に睡眠薬を内服させる。
- ③ 妻の衣服の表に名前と連絡先を書く。
- ④ 夜は電気をすべて消して部屋を暗くする。
- ⑤ 寝室を別にして妻の部屋を施錠する。

精神医学について

1：出席等について

ほぼすべての授業で出席を取っておりました

2：精神医学の合否情報など

本試の実施日は2022年7月14日でした。

再試対象者についての発表はありませんでした。

令和5年度「精神医学コース」筆記試験 模範解答

学年： 4 番号： 007 氏名： ジェームス・ボンド

番号	解答	番号	解答	番号	解答
1	4	16	4	31	2
2	4	17	2,5	32	3,4
3	5	18	1,2	33	2
4	2	19	3	34	3
5	3	20	5	35	1,3
6	2	21	2	36	5
7	5	22	3	37	2
8	5	23	2	38	4,5
9	2	24	3	39	4
10	5	25	1	40	5
11	2	26	3,4	41	1
12	1,3,5	27	2	42	2,3
13	5	28	2	43	4
14	1	29	1	44	1
15	5	30	2		

合計： 点/88満点（1問2点）